

ようこそ 盈進の読書科へ



読むことは「知ること」
書くことは「考えること」

盈進は「平和、ひと、環境」を大切にする中高一貫の学び舎です。豊かな言語力を身につけ、確かな倫理観を養い、きらりと光る独創性に磨きをかけることを目指す「ひとづくり3教科」を学校教育の柱に据えることで、たくましく生きる力を育む教育を展開しています。中でも「読書科」はすべての学力の基盤となる「ことばの力」を培うオリジナル教科として特に中心的な役割を担います。

* EISHIN GAKUEN

SPECIAL INTERVIEW 2022

～私をつくった10冊～

明治大学 文学部
(心理社会学科臨床心理学専攻)へ進学

酒見 知花 (さかみともか)

2021年度高校3年生
福山市立湯田小学校出身

1冊の本に人生をまるごと変えてしまう力がある——偉人たちの残したことばの中には本の持つ力について言及したものが少なくありません。盈進の読書科はそうした本の持つ力を信じ、本と出合うチャンス、本が大好きになる仕掛けをたくさん用意しています。瑞々しい感性に満ちた10代に出合った本たちは、きっと人生においてかけがえのない宝物になることでしょう。さて、2022年度の卒業生インタビューのテーマは「私をつくった10冊」。盈進の読書科で学んだ「読むこと」「書くこと」を通してどのように未来を切り拓いたのか、今春盈進高校を卒業した酒見知花さんにインタビューをおこないました。小学生時代から現在に至るまでの酒見さんの読書遍歴から、本の持つ力を感じていただけるはずです。

《明治大学 和泉キャンパス 図書館にて》

◆明治大学合格おめでとう。大学での学びがスタートしますね。

—— ありがとうございます。大学では社会的弱者とそれを取り巻く環境の心理について学びを深めたいと思っています。いじめや虐待、目に見えない貧困問題などの社会的問題に直面したとき、心理を学ぶことで助けられる機会があるのではないかと考えています。

◆心理学に興味を持ったのはいつから？

—— 小学6年生の時にドラマを見たのがきっかけです。対話を通して人が人を治療できることに感動を覚えました。そのときはスクールカウンセラーになりたいと考えていました。

◆今考えている将来の夢は？

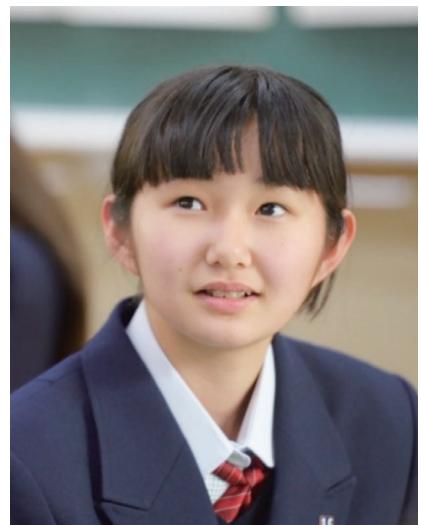
—— 心理カウンセラーになって、いつか地域密着型の診療所を作りたいと思っています。地域と人とのつながりの場を心の拠り所にできれば、人はもっと強くなれると思うからです。

◆小学校を卒業し、6年間の盈進での生活の中で、どうやって今の「自分」という存在を作り上げたのか、「私をつくった10冊」を挙げて、本との関わりを教えてください。

—— まず、私が読書にのめり込んだきっかけは伝記『キュリー夫人』。小学3年生の時、小学校の廊下にあった本棚に伝記が数冊あり、なんとなく手に取った本でした。約150頁の本の中に、キュリー夫人の幼少期から亡くなるまでの人生、そして夫人生きあとの状況まで細かく書かれていることに驚きました。彼女の偉業だけに焦点が当てられていないからこそ、人間らしさを感じて面白くなつていき、分厚い本であったのにも関わらず、授業が始まったことにも気づかないくらい夢中で読んでいる自分がいました。それからは、ヘレンケラーやナイチンゲールなど、本棚にあった伝記を片っ端から読破し、さらに本を求めて図書室に通うように。図書室の目立つ場所に漫画で描かれた伝記はいっぱいあったのですが、図書室の一番奥、埃が舞つていそうなところにある活字だけの伝記を「全部私が読む！」なんて意気込み、名前も知らない人の伝記まで読むことも…『キュリー夫人』は本を読み終えることの達成感と「ひと」への好奇心をかき立ててくれた思い出深い1冊です。

◆本が大好きな小学生だったんだね。盈進に入学したら読書科の授業があるから嬉しかったのでは？

—— はい！中学生になって2冊目に読んだ『100万回生きたねこ』が心に残っています。保育園の時から祖母に紙芝居や絵本をよく読んでもらっていて、この本も5歳の時に1度読んだことがあります。当時は「この猫、なんども生き返って羨ましいな」なんて思ってはいたものの、はっきりとしたハッピーエンドで終わらなかつたことが記憶の片隅に残っていました。中学生になって授業で絵本を読むことにも驚きましたが、読み直しのつもりで読んだ『100万回生きたねこ』は、「あれ、こんな物語だったっけ？」と思うほど全く違う物語でした。100万回生きることよりも愛する人との1回きりの人生がこの猫にとっての「幸せ」のかたちなのかな、と感じたとき、どんなプリンセスが出てくる物語よりもロマンチックに思えて仕方なかつたのです。年を重ねるごとに奥深さ、面白さが変化していくこの絵本は大人からも子どもからも愛される稀有な本であることは間違ひありません。



中学1年生の教室での1コマ

◆盈進の読書科では数年おきに集団読書の課題図書を見直しているんだけど、この『100万回生きたねこ』だけはずつと残り続けているんです。きっとその理由はもう分かつて頂けたようだね。

—— でも、私の中の、読書本ナンバーワンは『卵の緒』なんですよ。さっぱりとして大胆な母親と、年齢よりも少し大人びている主人公の軽快なやりとりで繰り広げられる物語に、先生の声が聞こえなくなるくらい夢中になって読みふけっていました。「再婚」「血の繋がらない親子」「不登校」というマイナスイメージを持つ言葉ですら日常の一コマに自然に溶け込んでいて、斬新で不思議な本です。私自身の家族とも重ねてみたりしながら、本の中には出てくる母親の「大好きよ」という言葉と親子の関係性、主人公の考え方などどこか救われた気がしました。心がほかほかする気持ちになった初めての本もあり、今でも度々読み返したいほど大好きな作品です。



『卵の緒』は今でも大好きな一冊

◆この本は授業で読んでいると、みんなが同じタイミングで笑ったりジーンとしたりする一体感を味わえる本だよね。集団読書で読むことの楽しみはこういうところにあるね。

自分だったら選ばない本を読む機会を与えてくれるところも、読書の授業のいいところですよね。私は中学生まで読書は好きでしたが、エッセイやノンフィクションなどの類は読まず嫌いをしていました。だから『赤ヘル1975』はちょっと苦手なジャンルでした。この本はとっても分厚いので、最初にみんなで少し読んでからある程度ページが進むと自分で読み、1章読むごとにシールが貼られるシステム。ここに私の負けず嫌いが発動し、誰よりも早く最後まで読むぞと意気込んで読み進めました。すると苦手だったジャンルの本に、私の方からはまって読んでいたのです。もともとカープにも野球にもそんなに興味がなかった私が、いつの間にか「鈴木!もっと打て~!」と読み終える頃には一緒に応援していました。本がきっかけで広島という故郷を見つめ、新たな世界に出会えた気がします。



中学2年生では、クラスメイトと“本をめぐる旅”へ。しまなみ海道にて
前列左端が酒見さん

◆赤ヘルは500ページを超す長編小説で、読書の授業で扱う最も分厚い作品です。でも、重松清さんの作品はやっぱり力作ぞろいで、読書の授業でも必ず読みたい本だね。

重松さんの作品と言えば、『十字架』という本が印象深いです。この作品はいじめの傍観者が主人公の本で、当時中学生だった私には言葉も内容も重くて重くて、何度もやめようと思いました。しかし、私の心のどこかで「最後まで読まなければならない」って言われている気がして、1か月もかけてやっと読み切った作品です。簡単に人にオススメすることができないけれど、心から「読んでよかった」と思える作品です。

◆ちょうど5冊目を紹介してもらったけれど、小学生から中学生の間でずいぶん成長した目線を持つようになったことが分かるね。自分で何だろう、これからどんな大人になるんだろうと考えるようになる時期に、どんな本と出合うかはとっても大切だね。

そういう意味では中学2年生で読んだ『何者』という作品は考えるきっかけをくれた本です。身近なSNSと就活がテーマの本なのですが、Twitterのツイートを軸に臨場感のある物語が展開され、人間関係の複雑な絡みのようなものが浮き彫りになってきます。この作品を読んで、いっそう家族や友人との直接的なつながりを大切にし、SNSとの付き合い方を考えるようになりました。

◆じゃあ、楽しみの読書はどんな本で？

中学3年生で『君にさよならを言わない』を手にとって以来、七月隆文さんという方の作品が大好きです。だって物語が「僕には、幽霊が見える」という衝撃的な書き出しからスタートするんですよ。ある時、幽霊が見えるようになった主人公が、消化しきれなかつた魂の願いを叶えていく短編集で、あまりにも無常な死というものに対して、読んでいる私が悔しくなるほどどっぷり感情移入し、泣いてしまいました。本当に切ないんですが、温かいんです。毎回、七月先生の作品はタイトルに「？」を浮かべながら読むのですが、読み終わって本を閉じ、タイトルを見たとき「ああ、そういうことか」と納得する瞬間がとても好きでした。恋愛ものはあまり読まない私ですが、七月先生の本は、土曜日の昼下がりぐらいから一気に読み直して、涙を流すという日が1年に2・3回あります。

◆そんな豊かな読書体験を持つ知花さんが、高校生になるとどうなっていくんだろう？

高校1年生で、私の座右の書とも言える1冊に出合いました。岡山県にある国立ハンセン病療

養所長島愛生園で精神科医をされていた神谷美恵子先生が書いた『生きがいについて』です。中高6年間所属したクラブ活動での学びとも重なりますが、実際に神谷先生が読んだ本が置いてある「神谷書庫」を訪れて、彼女の人柄や生き方そのものに強く心を揺さぶられました。この本は社会的弱者である人物が描かれた精神医学書ですが、神谷先生らしい言葉の紡ぎ方や着眼点は、心理学の道に進むことを決めた私にとって心の拠り所となる本です。



神谷書庫で読みふける

◆自分の進む道を本が照らしてくれたようだね。

心理学の中でも臨床心理学を学びたいと考え始めた私は、その後『心の処方箋』という名著を手にしました。スクールバスで通う道中に読んでいたのですが、1章ごとのテーマが簡潔で、現代人が悩みがちな問題に「そんなに難しく考えるな」と言われている気がして、バスの中で思わずクスッと笑ってしまうほどでした。読み終えると心がスッキリした感じがするので、受験勉強の合間に読んでリフレッシュしていました。

◆いよいよ「私をつくった10冊」の最後の1冊。

はい。高校3年生の時、教室の後ろにある学級文庫の中にあった『児童虐待から考える』という本です。受験のために手を伸ばした本でしたが、「加害者」とされる人たちの状況や関係性に目を向けると、そうした人たちを救うことのできていない日本社会の問題点が見えてくるその理論に、衝撃を受けました。社会問題の根本的解決のためには多元的に物事を見つめなければならないということに気づかされ、私自身の視野がさらに広がったという実感があります。

◆こうやって自分の読書遍歴を振り返ってみると、図書室、読書科の授業、クラブ活動、学級文庫…そうしたいろんな場面での本との出合いが、18歳の自分を作っているんだなあと、改めて感じるでしょうね。さて、大学入学を目前に控えた今、これからどんな読書生活を送ってみたいと思ってる？

私は高校生の後半で社会学系の本を手に取ったのですが、自分で本を探すことに楽しみを感じる一方で、誰かが推してくれる本を読んでみることも必要だと感じています。中学・高校時代はどうしても忙しい日常の中で本や図書館と疎遠になったりもするので、盈進の読書科の授業や、新しい図書館の存在は貴重なものであると改めて思います。実は、大学入学前に2冊の本を読んでそれぞれ2400字のレポートを提出するという課題が出たのですが、1冊は『夜と霧』という課題で、もう1冊は自分で選んでよいというものでした。そこで私はなんと『100万回生きたねこ』を選んだんです。幸せの定義についてもう一度考えてみたときに、中学1年生のときにこの本を読んだ私とはまた違う私がいたような気がします。進学する明治大学の和泉キャンパスの図書館は非常に規模も大きく有名なので、そこで思いつきいろいろな本に手を伸ばしたいですね。そして自分が出会ったすてきな本は、一生のうちに何度も何度も読み返していきたいと思っています。

後輩のみなさん、ジャンルを問わずいろんな本を読んでみてください。10冊の本との出合いが今の私をかたちづくっているように、どこに自分の世界を広げてくれる出合いが待っているか分かりませんから。1つ1つの出合いを大切に、学びも人間性も豊かにしてくれる本との出合いもその1つだと思います。

◆どうもありがとう。

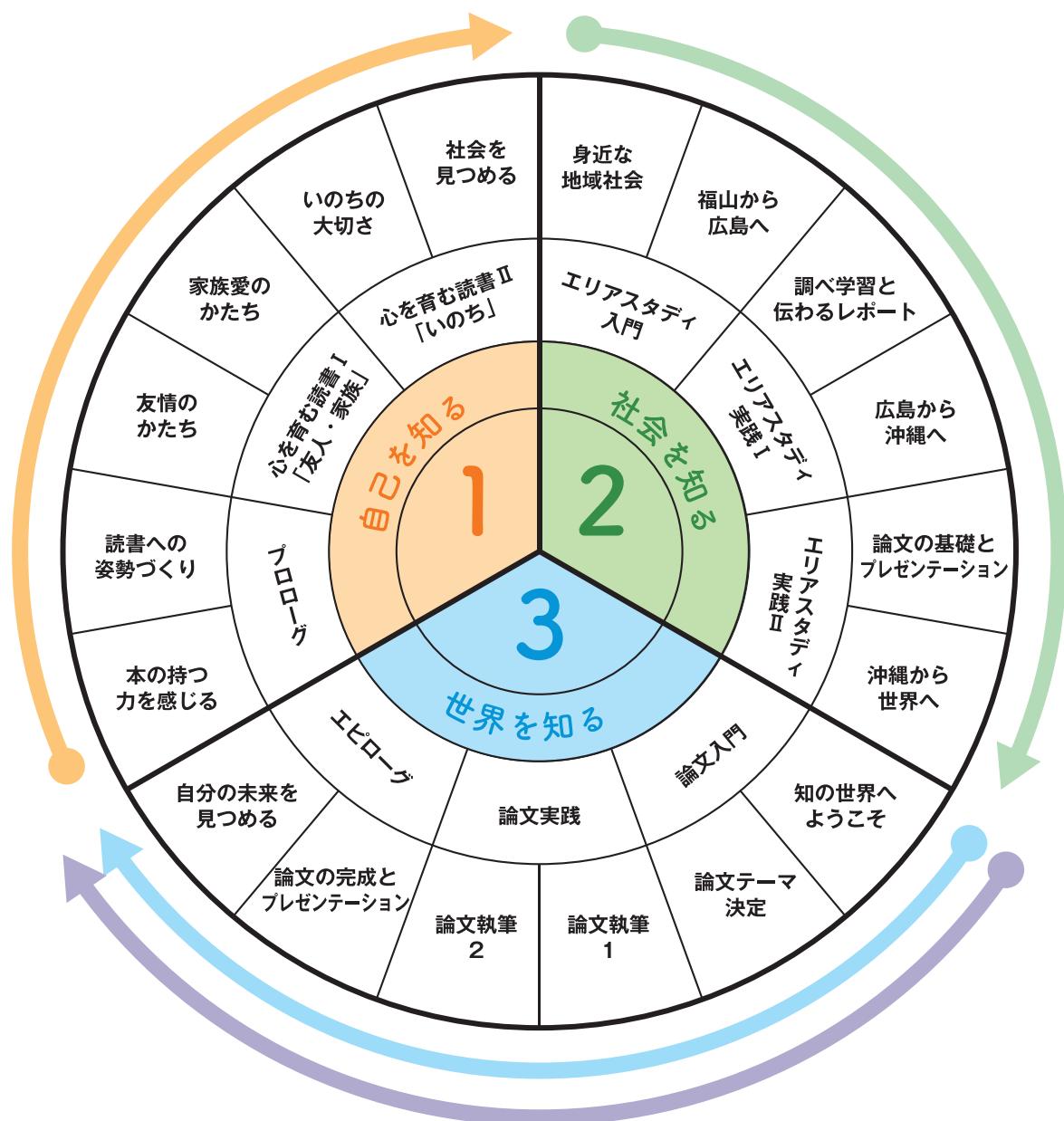
本との出合いが今の自分がつくってくれているなんて、ほんとうに素敵なことだね。これからも大好きな本にたくさん出合えますように。



読書科の学び

～本と出会い、ひとを知る～

読書科の授業には各学年に「学びのテーマ」が設けられています。週1回の授業で選定図書を年間10冊以上、3年間で30冊読むことを目標にしています。3年間の読書活動の中で、前半は仲間と本を読む一体感を味わいつつ、お互いの意見を交流することで、心を豊かに育みます。また後半は、私たちが生きる社会について知り、この世界で今起きていることを見つめ、各自が考える課題を解決します。「読み、書き、伝える」活動の中から自分の生き方を見つめる教科です。



読書科3年間の学びのテーマとカリキュラム

1
年生



2
年生



3
年生



3年生では各自の選んだテーマに基づいて『修了論文』に取り組むため、使用する本も1人ひとり異なります。学校図書館、公共図書館の所蔵する本を自分で見つけることから始めます。



①年生 のテーマ 自己を知る personal

1年生のテーマは「自己を知る」。家族や友人とのつながりを通して心の成長を遂げる主人公の姿に、自分自身を重ね合わせて読みます。さまざまな愛情のかたち、友情のかたちに触れ「かけがえのない自分」に出会うとともに、自分を取り囲む人の存在にも気づくようになります。心を育みながら本が大好きになる1年間です。



②年生 のテーマ 社会を知る local

2年生は「自己」から「社会」へと視点を移し、読書活動の領域を拡げます。私たちの故郷「福山」そして「広島」について知り、「平和」というキーワードを学習旅行で訪れる「沖縄」さらに「世界」に結び付けます。「地域研究」×「平和学習」が生み出すドラマチックな読書活動を展開する学年です。



③年生 のテーマ 世界を知る national global

「自己」から「社会」へと視野を広げた2年間の学びを経て、3年生ではもっと広い「知の世界」での学びを体験します。自分の興味・関心のある分野からテーマを設定し、4000字以上の文章をまとめた修了論文は中学校3年間の読書活動の集大成となります。

未来を見つめる15歳へ

～ドリームプロジェクト～

広島のお好み焼きの歴史を学び、レポート作成。学びのまとめは広島お好み焼き広場にて

盈進中学校は1人1台のタブレット! 読書科の授業でもICTを活用します。

カルビー(株)の会長兼CEOの松本晃さんがポテトチップスをたくさん持って来校して下さいました!

世界のTOYOTA、トヨタ自動車のプリウス開発者 豊島浩三さんが来校!

私たちの街「福山」再発見。「盈進坂の桜」が「福の山百選」リストにありました!

『ハブレトルハブレトランをめぐる旅』～松永・尾道FW～ 物語の舞台を実際に歩きました

広島を舞台にした作品「赤ヘル1975」を読んで、全国の図書館に「読書郵便」という形でPR活動を展開。全国からたくさんのお返事を頂き感動!

E♥絵本プロジェクト 中学校の生徒&教員で取り組んだ300冊の「E♥絵本プロジェクト」! 新図書館にある絵本をオススメする冊子を作りました。盈進に来て下さった作家の落合恵子さんにプレゼント!さらに、自分たちでもオリジナルの絵本を制作しました。コロナ禍でも、本はたくさんの出会いをくれました!

EISHIN DREAM PROJECT

盈進の建学の精神は「実学の体得」。社会に貢献できる人が持つ本当にんげん力を身に付けるために「読書科」が創設され、四半世紀を経ました。そこで、こうした教育理念を大切にしつつ、「読書科」が主体となって「未来を見つめる15歳」を育成するため、「ドリームプロジェクト」を立ち上げました。

「ドリームプロジェクト」では、生徒たちの読書活動をさらに充実させるため、読書行事や講演会を企画、また読書環境の整備をおこないます。生徒たちの夢の実現を後押しする、盈進の「読書科」。ワクワク・ドキドキがいっぱい詰まった学びと一緒に体験しませんか?



<p>中学生 高橋 実優 13歳</p> <p>私は通う中学校には読書科という科目があります。読書を通して理解力や読解力の土台をつくり、伝える力を高めるための勉強をしていました。私は小学生の頃、読書が嫌いだったため、積極的に本を読んでいました。そのため、読書科の授業が不安でした。</p> <p>読書科の授業は、毎朝10分間の黙読時間もあり、本を読む機会が増えました。そのため、読書に対する興味も高まり、本を読む機会が増えました。そのため、読書に対する興味も高まり、本を読む機会が増えました。</p> <p>（福山市）</p>
<p>中学生 寺岡 沙姫 13歳</p> <p>中学校に入学した今年の春、初めて会う先生や他校出身の生徒たら知らなかつたので、どうしたらいいのか分からず不安でいっぱいでした。予想もつきませんでした。</p> <p>学校生活はどうのようになつて、かわいい人が多いからです。クラスの雰囲気にも慣れ、気軽に話せる友達もできました。行事もいくつか行われ、クラスはもちろん、学年で交換する機会もあり、協力や助け合いができる時間になりました。</p> <p>（福山市）</p>
<p>中学生 作田 和奏 13歳</p> <p>私の学校では校内の農園で野菜を育てる授業があります。今年の夏、私たちちはキュウリやナス、トマトなどを育てて収穫しました。キュウリは家を持って帰ることになりました。あるものは表面がぼこぼこになつています。別のものはつるつるしています。私はつるる家は喜んでくれました。キュウリは食べるど「しゃくしゃく」と音がして、口の中がひんやりしておい</p> <p>（福山市）</p>
<p>中学生 村上 横 12歳</p> <p>授業で「いじめ」をテーマに学習しました。これまで何度も学習をしました。歌詞には、母親が買つてもお気に入りの傘をボロボロにされても、「川に落として流れられた」とありました。また空想の出来事を家族に話しては笑つてはいました。</p> <p>（福山市）</p>

(2021年11月27日土曜日) (2021年12月16日木曜日) (2021年12月31日金曜日) (2022年1月13日月曜日)

13歳

ヤングスポットに挑戦！

中学1年生は日常生活や自分の夢を文章化し、中國新聞「ヤングスポット」への投稿に挑戦しています。

<p>中学生 重政 藍瑠 13歳</p> <p>私は将来、救命士になりたいと思っています。医療の難しさや大変さについてよく話してくれます。一方で、患者さんを助けることができた、患者さんから感謝されたなど、医療関係の仕事をした感覚を感じました。それから感謝されたなど、医療関係の仕事をした感覚を感じました。</p> <p>（福山市）</p>
<p>中学生 藤岡 にこ 13歳</p> <p>小さい頃からバレエを習ってきた私は将来、バレエ関係の仕事に就きたいです。小学生になり、そう思っていました。中学生になり、そう思っていました。私は先生が本当に可愛しかったからです。その先生への憧れからバレエ講師になりたいと思いました。</p> <p>（福山市）</p>
<p>中学生 作田 柚希 13歳</p> <p>将来の夢は学校の先生になります。だ。そう決めたきっかけは、小学校の時の友達の言葉だった。小学生の時、授業で「ミニ先生」という役割があった。問題や直しが早くできた人が、まだきていない友達を手伝うのが、とても嬉しいです。私はミニ先生をやることがあります。最初は仕方なくやっている感じだった。しかし、その思いを教えてくれたのが友達だった。私がミニ先生になった時、友達に</p> <p>（福山市）</p>
<p>中学生 三好 晃輔 13歳</p> <p>僕はトヨタ系の職業に就き、新たな自動車関連の部品を開発するという夢を持っています。自動車工場へ社員で行ったことだった。いろんな形や大きさの部品を取り付けられて大きな車がでていく光景に心が奪われた。自分が開拓した部品があつたら想像するだけで興奮した。そして、新たな部品の開発に携われるような職業に就きたいと思</p> <p>（福山市）</p>

(2022年4月1日金曜日) (2022年4月5日火曜日) (2022年4月10日日曜日) (2022年4月22日金曜日)

<p>自動車部品開発</p> <p>三好 晃輔</p> <p>福山市立宜山小出身</p>
<p>学校の先生</p> <p>柴田 柚希</p> <p>福山市立旭小出身</p>
<p>バレエ講師</p> <p>藤岡 にこ</p> <p>福山市立千田小出身</p>
<p>救命士目指して努力</p> <p>重政 藍瑠</p> <p>福山市立竹尋小出身</p>

14歳

憧れの人に手紙を書こう!



2年生は読書科の授業で『14歳からの仕事道』を読みます。作者の玄田有史先生(東京大学教授)は労働経済学を専門で、「希望学」という学問を提唱された方として知られています。盈進でも2017年12月にホンモノ講座の講師としてお招きし、中学生に向けて自分のなりたいもの、ありたい姿に近づくためにどのように考えたり行動したりすればいいのか語って頂きました。3年生で取り組んでいる修了論文においてフィールドワークを取り入れることになったのは玄田先生の教えがヒントになっています。探究の授業で作成した「This is my dream job!」とコラボレーションし、憧れの人に手紙を書くという取り組みをおこなったところ、たくさんの「ホンモノ」たちからお返事を頂くことができました!以下に一部を紹介します。



玄田有史先生講演会の様子



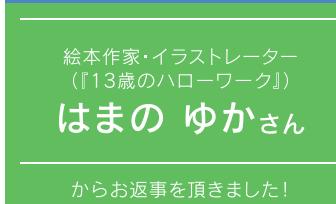
星野リゾート
代表取締役社長
星野 佳路さん

からお返事と書籍を頂きました!



平成27年度
ノーベル生理学・医学賞受賞
北里大学 特別名誉教授
大村 智さん

からお返事を頂きました!



絵本作家・イラストレーター
(『13歳のハローワーク』)
はまの ゆかさん

からお返事を頂きました!



(株)オリエンタルランド
東京
ディズニーリゾートさん

からお返事を頂きました!



2019年度
全日本剣道選手権大会優勝
國友 錬太朗さん

からお返事を頂きました!



彫刻家
(サグラダ・ファミリア主任彫刻家)
外尾 悅郎さん

からお返事を頂きました!



グラフィック
デザイナー
佐藤 可士和さん

からお返事とチケットを頂きました!



インテリア
コーディネーター
荒井 詩万さん

からお返事と書籍を頂きました!



公認会計士
(女性初の日本公認会計士協会会長)
関根 愛子さん

からお返事を頂きました!



特殊メイク・造型・かつら
メイクアップディメンションズ代表
江川 悅子さん

からお葉書を頂きました!

15歳

修了論文

～書くことは考えること～



読書科の授業では「自己」⇒「社会」⇒「世界」と視野を広げていき、中学修了時には再び「自己」へと回帰するサイクルの読書活動を通じて「未来を見つめる15歳」の育成を目指しています。中学3年生では、興味・関心に基づいたテーマを自ら設定し、4000字以上の本格的な論文に挑戦。専門的な本を読み、自ら調べ、担当の先生の指導を受けながら半年以上かけて論文を書き上げます。主体的な学びを通して思考力を鍛えることで「21世紀型能力」の礎を築くとともに、自分のやりたいこと、なりたい姿を思い描くことができます。

2021年度修了論文テーマ例

- 「恋愛感情とその必要性」 ●「純喫茶のこれから」
- 「フリーズドライの謎」 ●「多目的化する図書館」
- 「災害救助(レスキュー)ロボット」
- 「全自動運転と運転免許」
- 「ブルーライトと視力低下の関係性」



中学生 佐藤 茜 15歳
この1年間、自分がテーマを選び、探究活動を行って修了論文に取り組んだ。人気興味がある私は笑顔と一緒にいるが、他の人の笑顔も見たい。
生徒手紙を出し、オンラインでイン

「修了論文」学び多く

タピヨーさせていたい。一番なるほどと思ったのは、頭が痛いときなどに痛いことを考えるのではなく、他のことと一緒に集中すると痛みは感じなくなるという対処法だつた。

私は看護師なので、先生に看護師に求められる能力を質問した。すると、自分の感情をコントロールする能力が必要だとおっしゃった。この論文で学んだことを忘れず、これから始まる高校生活で勉強に励んでいく。

(福山市)

中国新聞2022年3月22日

日韓交流 未来志向で

た。戦後、日本では韓国の文化に対する興味や、歴史に対する認識が薄い時代が続いたが、「冬のソナタ」はじめとする韓国ドラマが紹介されると、韓国の言語や文化に対する関心が高まった。今や、芸能分野を中心に韓国文化はお互いに未来志向の考え方を持ち、友好を深めるとともに、世界の中におけるアジアの連帯も果たしていくべきだと思う。

(福山市)

中国新聞2022年3月29日

この修了論文の執筆の際には、夏休み中に自分で計画したフィールドワークをおこなうことになっています。自分の調べたい内容についてより高度な知識を持つ専門家や、文化的・技術的な関連性の見られる企業などを訪問したり、手紙やメール等でのやりとりをしたり…手法はさまざまですが、自分の研究を深めるために「ひと」にアプローチします。もちろん本はそれを読むことで愉しみをもたらしてくれるのですが、本から一步飛び出して、現実社会とのつながりが生まれ、そこに「ひと」との出会いが生まれるとより豊かな喜びを生み出してくれるのです。「読書科」の目指す学びの完成形は、今その価値が注目される「探究」的学びそのものだと言えるでしょう。また修了論文を書き終えた中学3年生は中学2年生に向けて全員がプレゼンテーションをおこないます。先輩から後輩に引き継がれる伝統の行事です。コロナ禍でさまざまな制限がある中、本校ではICT環境の充実により、ZOOMを用いたインタビューやオンラインプレゼンテーションなど、その内容をさらに発展させながら取り組みを継続しています。





建築家 隈研吾さんに会いたい!



2022年3月26日 隈研吾都市建設設計事務にて

中学生 塚本 宗史 13歳
ぼくの将来の夢は、1級建築士になることです。小学生のころから物を作ることが好きで、学校が休みの日には、父と一緒に木小屋や自転車置き場などを作りました。こうして、いろんなものを作ることが好きになりました。
今、ぼくの通っている学校は新校舎が建てられ、とてもきれいになっています。うがが広く、トイレもきれいで、おかげで、ぼくたちは快適に学校生活を送っています。

1級建築士 将来の夢

の校舎のように、使う人が実際に使います。いいやすい建物をたくさん建てたいです。
ぼくがやらないといけないことは二つあります。一つは数学などの勉強や、創作のトレーニングをがんばることです。今それをしっかり勉強していないと、将来困ると思うからです。二つ目は大学に行き、とにかく1級建築士の資格を取ることです。ぼくは1級建築士になってビルなどの大きな建物を建てていきました。(福山市)

2020年2月27日木曜日 中国新聞朝刊

中学3年間の読書・探究におけるドリームプロジェクトの取り組みを通して、自分自身を見つめ、これから自分の夢を思い描きながら、それを少しずつカタチにしている生徒の1人を紹介します。

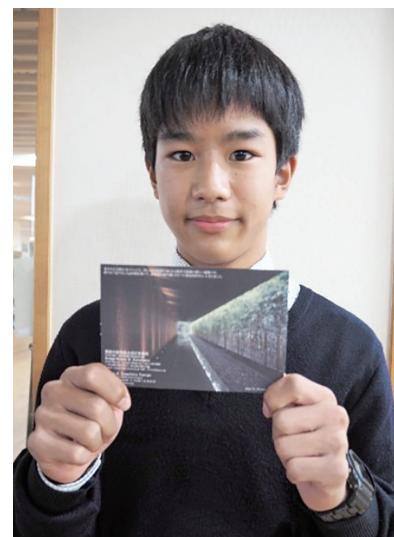
高校1年生の塚本宗史君の将来の夢は「建築士」。小学4年生の頃から漠然と思い描いてきたこの夢を中学生になつても持ち続けた塚本君は、中学1年生の探究で以下の「ドリームキャンバス」を制作しました。



中学2年次制作 「This is My dream job!」

また、1年生の終わりには自身の夢について文章を書き、「中国新聞ヤングスポット」に投稿・掲載されました。中学2年生になり、将来の夢について深く考え始めた塚本君は「隈研吾さん」という世界的建築家を知ります。ちょうど開催が予定されていた東京オリンピックの目玉である新国立競技場の建設を担当された世界的建築家です。

『14歳からの仕事道』を読んで早速隈さんに手紙を書いた塚本君は、隈さんから1枚のポストカードを頂きました。隈さん直筆の激励のメッセージが書かれてあり感激。隈さんへの憧れの気持ちはどんどん高まっていきました。



頂いたカード

そこで塚本君は隈さんの書かれた『建築家、走る』という本を読み、隈さんの建築にかける熱い思いをさらに深く知ることになります。この本をもとに塚本君が書いた読書感想文は、校内読書感想文コンクールにおいてみごと、「校長賞」を受賞しました。



校内読書感想文コンクール 校長賞



校内読書感想文コンクール 校長賞



2年生の終わりに探究の授業で取り組んだ「ひと」欄作りの際にも「ビッグな建築家を目指す」と書き、中学最後の読書科の取り組みである修了論文のテーマも「建築」にすると決意。そしてやはり憧れてやまない「隈建築」について調べることにしました。論文タイトルは「建築家、隈研吾に会いたい」。隈さんの書かれた本や、隈さんについて書かれた本を大量に読みました。ちょうどその年に14歳の世渡り術シリーズに『建築家になりたい君へ』が出版され、この本も活用しました。

塚本君の修了論文は2021年度「特別賞」を受賞しました。それは同じような夢を持つクラスメイトや、テーマに共通項目が見られるクラスメイトと一部共同で執筆するという新しい探究のかたちで取り組んだ意欲的な論文だったからです。そしてついに、完成した論文を建築家、隈研吾さんに送り届けることになりました。修了論文は12月の終業式までが清書提出期限なのですが、塚本君は同じ時期に隈さんに送付。すると年末に隈さんからメールが届きました。——「塚本君の論文に心を打たれました。僕の事務所で面会しませんか。少しでも彼の励みになればと思います。」——



オミクロンの流行もあり、蔓延防止法がやっと解除された3月末、東京港区にある隈さんの事務所を訪問。この論文のタイトルに込めた塚本君の夢の1つが実現した瞬間です。

盈進中学校読書科の学びは、探究をはじめとするさまざまな学びと連動しながら、生徒1人1人の夢の実現につながるまさにドリームプロジェクト。盈進ではこのプロジェクトにすべての教員が関わり、生徒の夢を温かく応援しています。

あなたの夢は何ですか？
盈進の読書科で学び、あなたの夢と一緒に実現してみませんか？



隈さん建築の国立競技場も見学しました



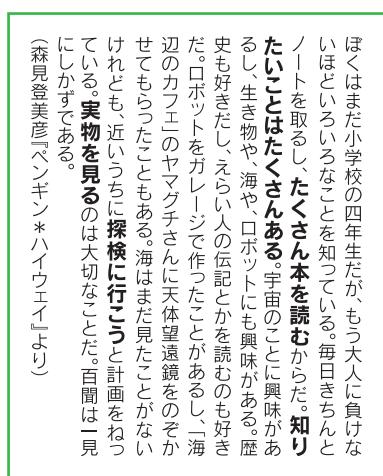
隈さんから写真集をプレゼントして頂きました



作曲家 阿部海太郎さん来校!

1冊の本との出会いが、さまざまな出会いを生み出す盈進ドリームプロジェクト。2021年11月22日にはホンモノ講座が開催されました。今回お招きした講師はNHKの人気番組「日曜美術館」のテーマ曲をはじめ、数々の舞台音楽を手掛けておられる、作曲家の阿部海太郎さん。講演タイトルは「音楽、その語り得ないもの」です。

海太郎さんは映画『ペンギン*ハイウェイ』の音楽も担当されておられ、中学生はフリーラーニングディに全員で映画鑑賞をしました。



また中学1年生の読書科では森見登美彦さんの原作をリレー読書しました。分厚いハードブックですが、物語の展開に引き込まれて一気に読み上げる1年生たち。読まれた本は次から次へとリレーされていきました。



校内には毎朝海太郎さんの音楽が流れ、読書の秋、芸術の秋も深まっていきました。創作の授業では読書とは？ 映画とは？ 音楽とは？について生徒たちが格言を考え、それをアート作品に仕上げます。読書のおもしろいところが、さまざまな教科がコラボレーションできるところです。



当日は海太郎さんの用意してくださったワークショップや映像なども交えながら、音楽の世界にどんどん引き込まれていく中学生たち。海太郎さん自身によるピアノ演奏「手」には会場全体の空気がピンとはりつめ、息を止めるくらい集中して聴いている姿が見られました。さらに海太郎さんは、音楽部のために映画『ペンギン*ハイウェイ』の楽曲「夏休み」の楽譜をオーケストラバージョンから吹奏楽バージョンへと作り直してくださいって、プレゼントしてくださいました。そこで、海太郎さん指揮によるセッションも実現できました。

「文学×映画×音楽」学校全体がアートの織り成す三重奏に包まれました。



《生徒の感想から》

海太郎さんがお話してくださったエピソードのどれもが興味深く、学ぶことがたくさんありました。弾いてくださったピアノもとてもキレイな音で、目を閉じると目の前に景色が浮かんでくるようでした。私は演奏の最後になる、ピアノの1音が静かに空気の中にとけていく瞬間が好きで、今日もそこに集中して聴きました。(1年生)

海太郎さんのお話は音楽を全く知らない僕が聞いてもとても面白いものでした。特に音楽部を指揮された演奏は鳥肌が立ちました。もともと「夏休み」は僕の好きな曲調でしたが、より一層特別感の増した曲になりました。海太郎さんのピアノはとても繊細な音で、今でも体の奥底でその音が響いているようです。(1年生)

毎朝学校で流れている「ペンギン*ハイウェイ」の挿入曲は、とても爽やかな曲調で、聴くと心がすっきりとします。私たちの身近にある「音」とは何なのか、どういうふうに感じられるものなのかを学ぶことができました。吹奏楽部の演奏もとても素敵なものでした。これから先も音楽と共に生きたいなと思いました。(2年生)

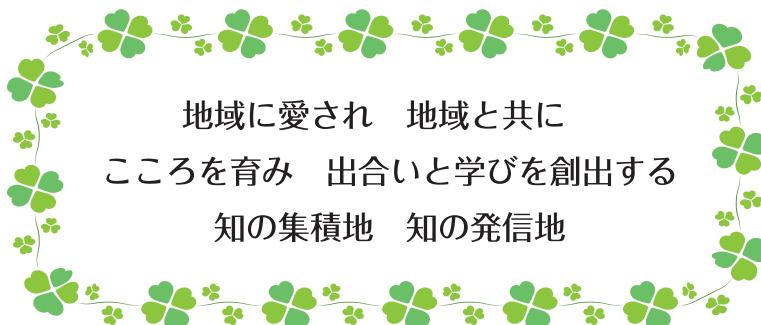
私は音楽部でオーボエをやっています。今回海太郎さんとコラボすることができて嬉しかったです。楽譜が配られた時、連符や音域に少し不安を持っていましたが、曲のワクワク感や壮大さに虜になってしまい、練習していく楽しかったです。海太郎さんが指揮を振っている間、実はとても緊張していましたが、想いのこもった指揮が緊張を解し、笑顔で吹ききることができました。(2年生)

自分にとって1番心に残っている音って何だろう、と考えました。初めて嵐のライブを行ったときのファン全員の歌声、何度も失敗した水泳の飛び込みの水に落ちる音、ベルリラをトランペットの人たちと一緒に初めて合わせた時など、たくさん思い浮かびました。音は消えてしまうけれど、心に残っている音はたくさんあります。感動も悔しさも喜びも、どの思い出にも風景、そして音があることが、今日とてもよくわかりました。(2年生)

盈進図書館

みどりのECL

～Eishin Community Library～



地域に愛され 地域と共に
こころを育み 出合いと学びを創出する
知の集積地 知の発信地



2019年度、盈進中学高等学校は新校舎での学びをスタートしました。その「顔」とも言えるエントランスには、従来の約3倍の大きさの新図書館が位置づけられています。新しい本も6000冊加わり、「知の集積地・発信地」として、さまざまな場面で盈進生の学力のベースを育む読書活動を支えます。また、新図書館の建築には、伝統の「読書科」の学びを生かした工夫が施されています。あわせて生徒には1人1台のタブレットICT環境が整い、この新図書館を中心とした探究活動がさらにパワーアップ!



新図書館には盈進に通う生徒・保護者、そして将来的には地域に開けた出会いの場となるように、「みどりのECL」という親しみやすい愛称がつきました。「いーくる」という呼び名は「Eishin Community Library」の略語であり、「盈進に『来る』」という掛詞にもなっています。あわせて図書館オリジナルのマスコットキャラクター「盈図(えいと)くん」も誕生し、図書館で行われるさまざまなイベントに登場します。愛称・キャラクター名・デザインとともにすべて校内の生徒による発案です。これは、「みどりのECL」の主役は生徒1人ひとりであり、生徒たちの手によってこの図書館が作られていくことを意味しています。





読書部スタート!

世界的建築家
隈研吾さんが
手がけられました



盈進に待望の「読書部」が誕生しました!自慢の図書館みどりのECLを拠点にあなたのステキなアイデア抛点にたくさん的人に笑顔の花を咲かせましょう。本が大好きな人のためのクラブです。



2021/12/23

◆創部記念旅行◆
(高知県梼原町雲の上の図書館)

読書部の
活動内容



本のあるステキな場所へ行こう



本と関わるステキな人に会おう



本のあるステキな空間を作ろう

CCCCCCCC
TO DO LIST

- 本をめぐる旅
- 読書会をひらく
- イベント企画
- オリジナルグッズ作り
- 本の作者に会いたい
- ブックハントに出かける
- 学校中に本を
…まだまだいっぱい!

手作り
ガチャで
おもてなし♥



WELCOME TO
EISHIN READING CLUB★

1年生の活躍

～表現力を磨く～

盈進中学校の読書科で培った「読む力」「書く力」を發揮し、生徒たちはいろんな「伝え方」で自己表現をします。ここでは2021年度入学の1年生が挑戦した作品の一部をご紹介します！

第20回 木下夕爾賞



ふくやま文学館と中国新聞備後本社が主催し、福山市が生んだ詩人「木下夕爾」を顕彰するためにもうけられた木下夕爾賞は、小中学生を対象に詩作を募集し、20年目を迎える歴史あるコンテストです。今年度は3部門（小学校低学年の部・高学年の部・中学生の部）で4050点の応募があり、中学生の部869作品の中から中学1年生の4名の生徒が入賞し、藤田友菜さん（福山市立戸手小学校出身）が特選（第1位）受賞、あわせて「学校賞」も頂きました。

特選 中学生の部

盈進中1年 藤田友菜

新しい私

ねこがひかいたあなた
傷のあるランドセルをおろし
メダルのように光る
金具がついた鞄を肩にかけた
雨が降るサインを出す雲のように
くすんだボロシャツを脱ぎ
わためのよう真っ白な
制服のシャツを着た



レモンのような形になった
帽子脱いで
その代わり
イチゴのように真っ赤に熟れた色の
リボンを襟元へ
それだけじゃない
私の日常を彩るもののが
全て大きく変化を遂げた
そして私は
「中学生」という新たなドアを開いた

「小学生から中学生へ」というテーマで、スクールバスの中で原稿用紙を広げて書きました。「ねこ」「ツバキ」「レモン」などの比喩表現は、あつという間に思いつきました。電子オルガンで作曲をしているので、特選を自信に、歌詞もつけてみたいと思います。

学校賞 手城小の図書室で現代詩や俳句を取り上げた絵本を手に取る児童



学校賞

福山曉の星小、手城小、盈進中

初めての景色

佐野 亮太
(福山市立新市小学校出身)

「これはなんだろう?」

「あれはなんだろう?」

「ぼくの目に入る
見慣れない景色

僕の心を

ウキウキとはづませた

磨くことに重きを置いた学習に取り組

んでいる。
手城小、盈進中が選ばれた。いずれの
学校も、国語の授業などで文章を読み
解く力を育て、子どもたちの表現力を
から、各学級で児童がお互いを褒め合
う時間で受けた。徳富雄校長は「相
手の内面まで見つめられるようになつ
た」詩の表現につながっているのでは
子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊
かな言葉を身に付けるため外部の国語
講師を招き、児童だけでなく教員も対
象にした授業を開いている。「読書科」
の授業がある盈進中は、1年生を対象
に小学校からの環境の変化を言葉にし
てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作
品を冊子にまとめ記録するという。

褒め合う時間や外部講師

18年ぶりに受賞した手城小は本年度

から、各学級で児童がお互いを褒め合

う時間で受けた。徳富雄校長は「相

手の内面まで見つめられるようになつ

た」詩の表現につながっているのでは

子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊

かな言葉を身に付けるため外部の国語

講師を招き、児童だけでなく教員も対

象にした授業を開いている。「読書科」

の授業がある盈進中は、1年生を対象

に小学校からの環境の変化を言葉にし

てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作

品を冊子にまとめ記録するという。

磨くことに重きを置いた学習に取り組
んでいる。
手城小、盈進中が選ばれた。いずれの
学校も、国語の授業などで文章を読み
解く力を育て、子どもたちの表現力を
から、各学級で児童がお互いを褒め合
う時間で受けた。徳富雄校長は「相
手の内面まで見つめられるようになつ
た」詩の表現につながっているのでは
子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊
かな言葉を身に付けるため外部の国語
講師を招き、児童だけでなく教員も対
象にした授業を開いている。「読書科」
の授業がある盈進中は、1年生を対象
に小学校からの環境の変化を言葉にし
てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作
品を冊子にまとめ記録するという。

磨くことに重きを置いた学習に取り組

んでいる。

手城小、盈進中が選ばれた。いずれの

学校も、国語の授業などで文章を読み

解く力を育て、子どもたちの表現力を

から、各学級で児童がお互いを褒め合

う時間で受けた。徳富雄校長は「相

手の内面まで見つめられるようになつ

た」詩の表現につながっているのでは

子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊

かな言葉を身に付けるため外部の国語

講師を招き、児童だけでなく教員も対

象にした授業を開いている。「読書科」

の授業がある盈進中は、1年生を対象

に小学校からの環境の変化を言葉にし

てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作

品を冊子にまとめ記録するという。

磨くことに重きを置いた学習に取り組

んでいる。

手城小、盈進中が選ばれた。いずれの

学校も、国語の授業などで文章を読み

解く力を育て、子どもたちの表現力を

から、各学級で児童がお互いを褒め合

う時間で受けた。徳富雄校長は「相

手の内面まで見つめられるようになつ

た」詩の表現につながっているのでは

子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊

かな言葉を身に付けるため外部の国語

講師を招き、児童だけでなく教員も対

象にした授業を開いている。「読書科」

の授業がある盈進中は、1年生を対象

に小学校からの環境の変化を言葉にし

てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作

品を冊子にまとめ記録するという。

磨くことに重きを置いた学習に取り組

んでいる。

手城小、盈進中が選ばれた。いずれの

学校も、国語の授業などで文章を読み

解く力を育て、子どもたちの表現力を

から、各学級で児童がお互いを褒め合

う時間で受けた。徳富雄校長は「相

手の内面まで見つめられるようになつ

た」詩の表現につながっているのでは

子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊

かな言葉を身に付けるため外部の国語

講師を招き、児童だけでなく教員も対

象にした授業を開いている。「読書科」

の授業がある盈進中は、1年生を対象

に小学校からの環境の変化を言葉にし

てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作

品を冊子にまとめ記録するという。

磨くことに重きを置いた学習に取り組

んでいる。

手城小、盈進中が選ばれた。いずれの

学校も、国語の授業などで文章を読み

解く力を育て、子どもたちの表現力を

から、各学級で児童がお互いを褒め合

う時間で受けた。徳富雄校長は「相

手の内面まで見つめられるようになつ

た」詩の表現につながっているのでは

子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊

かな言葉を身に付けるため外部の国語

講師を招き、児童だけでなく教員も対

象にした授業を開いている。「読書科」

の授業がある盈進中は、1年生を対象

に小学校からの環境の変化を言葉にし

てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作

品を冊子にまとめ記録するという。

磨くことに重きを置いた学習に取り組

んでいる。

手城小、盈進中が選ばれた。いずれの

学校も、国語の授業などで文章を読み

解く力を育て、子どもたちの表現力を

から、各学級で児童がお互いを褒め合

う時間で受けた。徳富雄校長は「相

手の内面まで見つめられるようになつ

た」詩の表現につながっているのでは

子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊

かな言葉を身に付けるため外部の国語

講師を招き、児童だけでなく教員も対

象にした授業を開いている。「読書科」

の授業がある盈進中は、1年生を対象

に小学校からの環境の変化を言葉にし

てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作

品を冊子にまとめ記録するという。

磨くことに重きを置いた学習に取り組

んでいる。

手城小、盈進中が選ばれた。いずれの

学校も、国語の授業などで文章を読み

解く力を育て、子どもたちの表現力を

から、各学級で児童がお互いを褒め合

う時間で受けた。徳富雄校長は「相

手の内面まで見つめられるようになつ

た」詩の表現につながっているのでは

子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊

かな言葉を身に付けるため外部の国語

講師を招き、児童だけでなく教員も対

象にした授業を開いている。「読書科」

の授業がある盈進中は、1年生を対象

に小学校からの環境の変化を言葉にし

てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作

品を冊子にまとめ記録するという。

磨くことに重きを置いた学習に取り組

んでいる。

手城小、盈進中が選ばれた。いずれの

学校も、国語の授業などで文章を読み

解く力を育て、子どもたちの表現力を

から、各学級で児童がお互いを褒め合

う時間で受けた。徳富雄校長は「相

手の内面まで見つめられるようになつ

た」詩の表現につながっているのでは

子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊

かな言葉を身に付けるため外部の国語

講師を招き、児童だけでなく教員も対

象にした授業を開いている。「読書科」

の授業がある盈進中は、1年生を対象

に小学校からの環境の変化を言葉にし

てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作

品を冊子にまとめ記録するという。

磨くことに重きを置いた学習に取り組

んでいる。

手城小、盈進中が選ばれた。いずれの

学校も、国語の授業などで文章を読み

解く力を育て、子どもたちの表現力を

から、各学級で児童がお互いを褒め合

う時間で受けた。徳富雄校長は「相

手の内面まで見つめられるようになつ

た」詩の表現につながっているのでは

子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊

かな言葉を身に付けるため外部の国語

講師を招き、児童だけでなく教員も対

象にした授業を開いている。「読書科」

の授業がある盈進中は、1年生を対象

に小学校からの環境の変化を言葉にし

てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作

品を冊子にまとめ記録するという。

磨くことに重きを置いた学習に取り組

んでいる。

手城小、盈進中が選ばれた。いずれの

学校も、国語の授業などで文章を読み

解く力を育て、子どもたちの表現力を

から、各学級で児童がお互いを褒め合

う時間で受けた。徳富雄校長は「相

手の内面まで見つめられるようになつ

た」詩の表現につながっているのでは

子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊

かな言葉を身に付けるため外部の国語

講師を招き、児童だけでなく教員も対

象にした授業を開いている。「読書科」

の授業がある盈進中は、1年生を対象

に小学校からの環境の変化を言葉にし

てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作

品を冊子にまとめ記録するという。

磨くことに重きを置いた学習に取り組

んでいる。

手城小、盈進中が選ばれた。いずれの

学校も、国語の授業などで文章を読み

解く力を育て、子どもたちの表現力を

から、各学級で児童がお互いを褒め合

う時間で受けた。徳富雄校長は「相

手の内面まで見つめられるようになつ

た」詩の表現につながっているのでは

子どもたちの変化を語る。

2年連続受賞の福山曉の星小は、豊

かな言葉を身に付けるため外部の国語

講師を招き、児童だけでなく教員も対

象にした授業を開いている。「読書科」

の授業がある盈進中は、1年生を対象

に小学校からの環境の変化を言葉にし

てもらおうと詩作を呼び掛けた。全作

品を冊子にまとめ記録するという。

磨くことに重きを置いた学習に取り組

んでいる。

手城小、盈進中が選ばれた。いずれの

学校も、

第74回 鈴木三重吉賞

広島市出身の児童文学作家鈴木三重吉にちなんで、中学地方の小中学生を対象に作文と詩を募る伝統的なコンクールにおいて、福島杏奈さん（福山市立神辺小学校出身）が佳作を受賞しました。今回の詩の応募総数は2634点。中学生で受賞するのは36作品（特選1、優秀賞3、佳作32）のみです。



「中学生になつた私」
福島 杏奈
(福山市立神辺小学校出身)

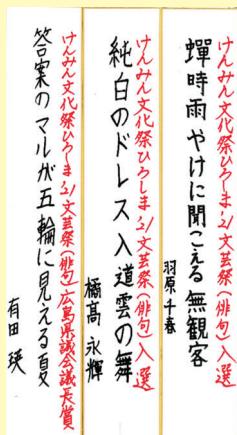
日差しがカーテンに透ける午前6時半
枕元に置いたスマートが大きな音で
朝が来たことを教えてくれる
小学校の頃は冊も読まなかつた
分厚い小説を小脇にはさみ
階段を勢よく駆けおりる

仲間たちの楽しい声が飛び交う教室
教科書の文字を読み上げる
先生のはきはきした声
小学校の頃はつも聞いていなかつた
タブレットに答えを入力する

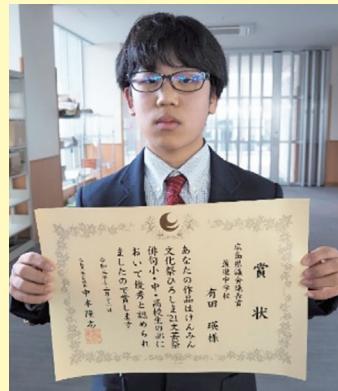
家庭が目を一瞬だけ離すな
私はふかふかのスタイルを首に巻き
紙パックのジュースを二気に飲み干す
そして
小学校の頃はまともに乾かさなかつた
短い髪をきれいにとかす

これは
誕生日やパーティーの前日ではない
中学生になつた私の
ふつうの二日だ

けんみん文化祭 ひろしま21 俳句の部



今年はオリンピックイヤー。夏休みに漢字の
小テストを整理していた時、僕はこの作品を
思いつきました。答用紙に書いてある
○を見てると段々と五輪に見えてくる
という不思議な感覚を俳句にしました。受賞を
知られた時はワクワクのまなから拍手をもらえたのでしてもうれしかったです。
お名前：有田瑛



伊藤園おーいお茶 新俳句大賞2021

現在2次審査
通過中の作品

伊藤園の新俳句大賞と言えば、知らない人はいない日本最大の俳句コンテストです。盈進中学校では毎年冬休みの課題として取り組む、言わば冬の風物詩となりつつあります。毎年200万句以上の応募がある、大規模なコンテストですが、今年は2次審査を通過した生徒が1年生だけでも6名います。審査は継続中ですが、ここでその6作品を紹介します。さあ、今年のパッケージ掲載は何人になるでしょうか、そして念願の学校賞も受賞なるか!? 俳句を通して季節を感じ、楽しみながら表現する取り組みです。

母親の 逆鱗雪まで 溶かしゆく
槙本 翔太 (福山市立福相小学校出身)

まつぶたつ 割ると潮風 香る牡蠣
三浦 佳穂 (福山市立千田小学校出身)

一直線 風切る鋭き 水鉄砲
安原 瑠星 (福山市立湯田小学校出身)

軒下の 干しがきのしわ 祖父の顔
岡田 大大 (福山市立神村小学校出身)

不器用な 力士並べて 紙相撲
藤井 大智 (福山市立御野小学校出身)

君の背中 食らいついで 走る夏
安田 勇翔 (福山市立道上小学校出身)

第54回 手紙作文コンクール



盈進中学校では、毎年夏休みに担任の先生に暑中見舞いを送る取り組みをおこなっています。そこで昨年度は、日本郵便株式会社主催の手紙作文コンクールに挑戦しました。これは、将来を担う子どもたちが手紙に親しみ、手紙を書く機会を増やすことで意思を相手に伝える能力を向上させるとともに、文章表現によるコミュニケーションの魅力を知ることで手紙文化の一層の振興を図り、心豊かな子どもたちを育むことを目的とした賞です。応募総数5893点の中から寺岡沙姫さん(福山市立加茂小出身)が「銀賞」、藤井大智君(福山市立御野小出身)が「銅賞」を頂きました。これからも手紙文化を大切に守り続けてくれることを期待しています。

第2回 校内読書感想文コンクール



(21) 読書

2022年(令和4年)4月10日(日曜日)

人間の考える力は特別

藤岡 力毅 盈進中2年

ぼくが宇宙人をさがす理由 鳴沢真也著

中国新聞 青春文学館
2022年4月10日朝刊掲載

宇宙人はいると思いますか? 広い宇宙には間のよくないう生物が一人くらいいてもいいのではないかと、僕なら答えます。

天文学者の著者は、宇宙人の存在を確認するために星の観測をしていました。僕は人類の謎を解明したい著者の姿に胸を打たれました。そして彼が宇宙人を探すもう一つの理由は、さらには自分の興味を持つたことしか深く知りたくないのです。僕はロボットに没頭するあまり、ほかの物事に疑問を抱いて立ち止まることです。僕はロボットに端から調べて発見する毎日にしたいです。この本は「人間の考える力」が特別なものだということに気付かせてくれました。

世界はだらさんの謎であることがありません。しかしこの本を読んで、僕の夢はロボットのアプローチマードです。小学校の頃、その謎について探求す

ることに人生の醍醐味があるのだと氣付かされました。

地球以外の惑星に生物が住み、人間のように考える力を持つていたとしたら、人間は特別ではありません。僕たちの前にはたくさんの謎があって、考える力があるのだからその力を使わないなんて、もったいないことです。

僕は知りたいことを片つことだけ、僕はロボットに没頭するあまり、ほかの物事に疑問を抱いて立ち止まることです。僕はロボットに端から調べて発見する毎日にしたいです。この本は「人間の考える力」が特別なものだということに気付かせてくれました。

隨時掲載します

盈進中学校では、2020年度より校内読書感想文コンクールを実施しています。このコンクールは、朝読書や読書の授業、または長期休暇期間中に読んだ本について自分の思いや考えを文章化するもので、校長賞をはじめ、各クラス担任賞さらにはクラブ顧問賞まで用意してある盈進のビッグイベントになっています。中学1年生は最年少での参加となりますが、先輩たちに負けない力作ぞろいの読書感想文を執筆。2021年度には藤岡力毅君(福山市立手城小学校出身)の作品(『ぼくが宇宙人をさがす理由』を読んで書かれたもの)校長賞(1学年最優秀賞)ならびに情報口ポット部顧問賞をダブル受賞し、中国新聞の「青春文学館」にも掲載されました。なお、中学生の全作品は多目的ホールに展示され、来校して下さった方々に読んで頂いています。

～1年間読書の授業を受けた在校生の「声」～

目覚ましい活躍を見せている現2年生たちが1年間読書の授業を受けた感想を聞かせてくれました。

本には色々な人の色々な生き方や考え方方が書かれています。そしてその本を読んだ人もそれぞれ生き方や考え方方は違います。だからその本から感じ取ることも40人だったら40通りあると思います。1人で読んで1人で感じるのなら、それは1通りの受け取り方しかないけれど、みんなで読んでみんなが感じたことを共有すれば、自分の中には新しいことを感じられ、その本をまた別の角度から読むこともできるようになると思います。こうした目線は、本の中だけでなく、私たちの日常の生活の中でも活かすことができると思います。

田口 美羽

(府中市立国府小学校出身)



みんなで同じ本を読んで、1人1人の思ったことや感じたことをみんなで考える。本の好きなシーンなど、1つのテーマをみんなと意見交換できる。本を読みながら同じタイミングで笑ったり、同じタイミングで共感しあつたりしてお互いの仲がどんどん深まっていく。読書で読んだ本の作者の人にお手紙を出したり、1冊の本をきっかけにいろんな人と出会うことができる。人と出会うことでも自分の知らない本と出会うこともできる。

これが読書の授業だ。



摩騰 惇太

(福山市立瀬戸小学校出身)

人生観を変える本、価値観を変える本、考え方・感じ方を変える本——自ら手に取る本以外にも、素晴らしい本が沢山あります。そうした何かのきっかけになる本に出会えることができ、更にそれを仲間と共に共有することも可能な時間、それが読書の時間です。1人で読み1人で考えるよりも、複数人で読み複数人で考える方がそのきっかけは大きいものとなります。実際僕は本棚を見つめても手に取らなかつたであろう本とこの授業で出会い、何かを与えてもらっています。読書の時間は、会えないはずの本に会わせてくれる場所です。

若山 尚平

(福山市立水呑小学校出身)



本の価値を考え、自分の人生と照らし合わせたりして、自分の考える理想の自分に足りないものを見つけてそれを伸ばしていくたりして新しい自分との出会いにたどり着くための道しるべとなっている授業。

1歩1歩のぼっていく階段でゆっくり後押ししてくれる友だちみたいな授業。

1週間と1週間を物語で結んでくれたりするリボンみたいな授業。

そして、そのリボンで自分たちの人生の飾りつけをしてくれる、最高の授業。



下江 凌斗

(福山市立御幸小学校出身)

読んだ本の主人公の思いを話し合ったりすると、「あっ、そういう感情(考え)もあるんだ!」と世界が広がります。自分の考えでは思いつかなかった考えを吸収できたり、自分の考えがもっと幅広くなったりする体験でした。これからも私は新しい本を読むことで、もしかしたら自分の未来が変わるかもしれないと思っています。お気に入りの本に出会ったり、好きな作家を見つけたりする中で、本の世界が自分の世界を広げてくれ、なりたい自分が見つかるかもしれませんからです。だから私は教科の中で1番読書が大好きです。



豊田 光

(福山市立西小学校出身)

読書の時間は、どんなに焦っていても、どんなに辛いときでも、心を楽にしてホッと一息つけて、感情を豊かにすることのできる時間でした。「この本がおもしろかったから、この作者の別の作品を読んでみよう」と、もつと知りたくなってきて、本がつながっていく不思議な感覚も、僕の中ではありました。笑ったり、考えさせられたり、本から未来を考えたりでき、他の教科からは学べない大切なこと、すてきなことをたくさん受け取ることができた授業でした。僕にとって必要な時間だと思います。

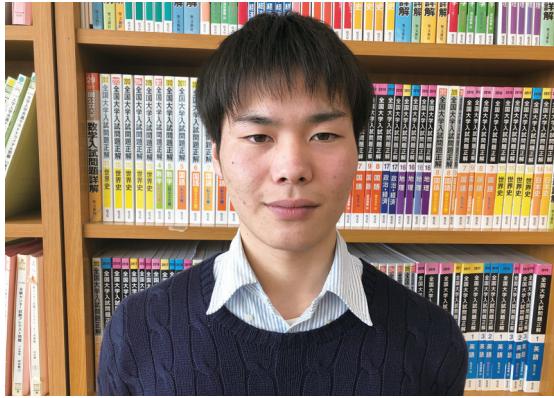


藤井 大智

(福山市立御野小学校出身)

私の盈進読書科

～卒業生の声～



《2019年度高校3年生》

船井 一真（府中市立府中小学校出身）

慶應義塾大学 理工学部
学問D(機械・システム分野)へ進学
[中3時]英検2級 [高3時]英検準1級

読書の授業は中学1年生の時にはみんなで同じ本を読んで、自分の考えを表現したり話し合いをしたりしました。他の人の意見を聞くと自分1人では気付かなかつた部分に気付かされ、そんな視点もあるのかという新しい発見があつてとても新鮮でした。中学2年生になると、今度は自分たちの住む広島や学習旅行で訪れる沖縄についての本を読んで、世界がさらに広がりました。読書活動がいろんな科目的授業や学年の行事と繋がっていて、学びが深まりました。

中学3年生では自分自身でテーマを設定し、それについて調べたことをまとめた修了論文に取り組むのですが、小学校高学年から将来は航空関係の職業につきたいと考えていた私はすぐにテーマを「超音速旅客機」に決定。本やインターネットから自分にとって必要な情報を探し、集めた情報を選別してまとめるのは思った以上に大変でしたが、自分の好きなテーマということもあり一気に書き上げることができました。修了論文では情報を使い分ける力が身についたと思います。また、学年プレゼンテーション大会にも出場し、中学卒業時に優秀論文として表彰して頂いたときはとても嬉しかったです。

また、この修了論文を書いた後に、読書の授業で憧れの人には日本航空（JAL）の植木義晴社長（当時・現在は同社会長）に手紙。植木さんは慶應義塾大学から航空大学校を経て日本航空にパイロットとして就職し、「機長出身の社長」となられたレジェンドです。手紙にはパイロットとしての強さと、人間としての柔軟性を併せ持つ「人間力」を強くアピール。強をしてバランスを持つ人間になることを両立するように」など強いことばで結ばれていましたが、これは盈進高校入学直前の筆者にとって大きな影響を受けたと思います。手紙は今でも大切に持っています。

私は高校1年生の頃からある程度行きたい大学を決めて勉強していました。それはパイロットになりたいという夢が変わらずあったからです。難関校の入試問題は典型題などはあまり出ず、多くの時間と思考力を必要とする問題がよく出ます。そんな応用問題を解くには基本がしっかりしていないと手掛けられもつかめません。だから高校3年生の夏までは基礎固めにこだわり、秋からはその基礎を問題で活用させて過去問などを解いていました。すると春には全く歯が立たなかつた問題が冬ごろに解けるようになっていきました。やはり基礎の徹底は重要だと思います。また、勉強しながら感じたのは、読解力がないと、どんな教科も学力を伸ばすのは難しいということ。その点から言っても中学生の時期の読書の授業は非常に意味深いものでした。「読む」ことでインプットするだけでなく、論理的に「書く」ということ、そしてそれを発表の形で「伝え」、アウトプットすることで、「思考する」力がついたと思います。

後輩のみなさんに言えることは、できるだけ本を読んでほしいということ。本当に自分がなりたいものに近づくための勉強をするときに読解力は必ず必要になるからです。ぜひ読書の時間を活用して下さい。それから、盈進は様々な地域から集まつた仲間とたくさん出会えます。自分とは違う考え方や価値観を持っている人とのつながりを大切にして、部活動に勉強に、充実した6年間を送ってください。私も受験直前には緊張で気が滅入ってしまうことがありましたが、最後まで一緒に勉強を続けた仲間がいてくれたからこそ乗り越えることができました。仲間の力は絶大です！



創作の授業で陶芸に挑戦（中学2年生）

日本航空 植木社長(当時)からのお手紙



《2018年度高校3年生》

後藤 泉稀（府中市立国府小学校出身）

早稲田大学社会科学部へ進学

残っています。『泣きみそ校長と弁当の日』を読んで、クラス全員が自分でお弁当を作ってくるという授業や『14歳からの仕事道』を読んで、自分の憧れの人に手紙を書くというものがありました。当時の私の夢は「キャビンアテンダント」から「医師」に変わっていて、沖縄の診療所の先生に手紙を書きました。母の知人の女医さんから『風に立つライオン』という本を頂いたことがきっかけでした。私の夢は、「本」との出会いによって少しずつ変化を遂げていったように思います。

中学3年生で取り組む修了論文のテーマは「ボランティア」。「医療」に興味があった背景には、気や災害など困難な状況に置かれた人を精神的・物質的そして技術的に支えるにはどうすればいいのか考えていた自分がいます。修了論文を書くことはもちろん自分の興味関心があるテーマを熟考する大切な機会だったのですが、それ以上に印象的だったのは、周りの仲間たちがそれに興味があるテーマを見つけてそれをすごく楽しそうに調べている姿でした。クラスメイトが意外にも「火山」に強い興味を持つていたり、友達が「童謡」について熱心に調べている姿は今でもよく覚えています。

高校3年間はあつという間でした。否が応でも進学を意識しなければならなくなる中、クラブの先輩で新聞記者の先輩への憧れの気持ちが常にありました。その先輩が慶應大学出身ということもあり、早い段階から早慶を意識していましたが、高校1年生の時に初めて早慶のキャンパスを見て魅了されました。そして先輩の影響もあり、自分の夢も「ジャーナリズム」に固まっていました。

しかし高校3年生の9月から始めた小論文のスタートは「書けない・ネタない壁への直面からスタート。今でもよく覚えているのは慶應の「来年1月1日から人類が鳥のように空を飛べるようになると仮定します。現在の法律および社会通念は人が空を自由に飛ぶことを前提としていないためさまざまな混乱が予想されます。解決策を述べなさい」という問題です。「書くこと」「考えること」に向かう日々でした。地方に住みながら首都圏の私大を受験するのは大きなハンデがあります。入試問題が手に入らなくて東京にいるクラブの先輩に大学まで足を運んでもらい入試問題を書き写してもらつたこともあります。何度も何度も考えて書いて、直してまた書いての繰り返しを続けて、3校目の受験で小論文を書いたときやつと初めて「書けた」という手ごたえの実感が生まれ、合格を頂くことができました。小論文や志望理由書を書いたり面接練習をしたりする中で、本当に自分のやりたいことがこの大学にあって、それが夢にもつながっているんだという実感が湧いてきたような気がします。やはり「書くこと」でだんだん自分が作られていくような感覚を覚えました。私の夢は小中高と変化を遂げていきながら、たくさんの出会いを通して今の「わたし」になっていく、そんな感覚です。

大学入学後も報道に携わりたいという夢は変わっていません。盈進で培った力は確かなものでした。「書くこと」は大学では学びの土台であり、さまざまな場面で情報を処理し、学びを自分の言葉にする力が求められるからです。また、グループワーク等を通して自分の考えを誰かと共有する際に「書く力」「考える力」を「話す力」に上手く転換できるかどうか大事だと実感しています。

みなさんの中にも、将来どんな人になりたいかが決まっている人もそうでない人もいることでしょう。でもそれを発見するきっかけはきっと、みなさんの日常に溢れています。人や本、景色など様々な巡り合いに気付けるようアンテナを張り、大切な「今」を過ごしてください。

私はもともと「書くこと」がとても好きでした。小学校で「ことばの教育」を受けていて、問答ゲームや詩の暗唱、視写なども徹底的に鍛えて頂いていたので、中学年までには基礎的な技術は身に付いていたように思います。高学年になるとさらに「考える」実践を重ね、スピーチなどにも取り組んでいました。

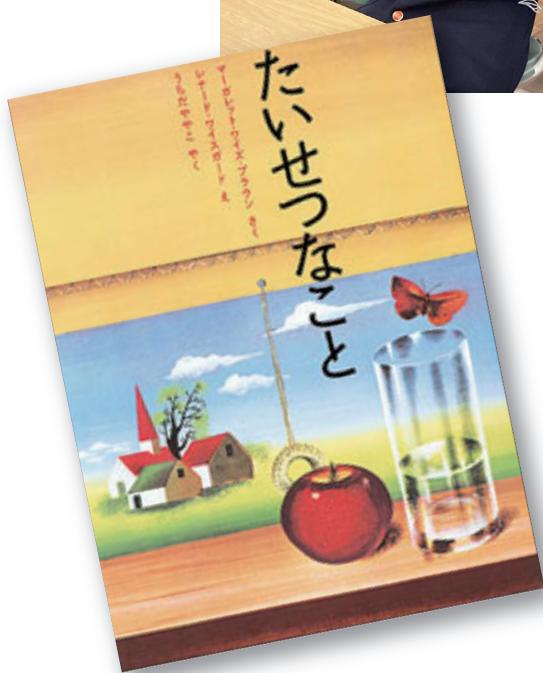
盈進中学校に入学した私は、その日の出来事を綴るEノートで担任の先生から頂けるコメントが嬉しくて3年間楽しんで書き続けることができました。反抗期の真っ只中にあつた私ですが、「書くこと」で素直になれる自分がいました。3年間分のEノートは今読み返してみても成長の跡がきちんと残っています。

中学2年生になると、英語が好きになって「キャビンアテンダント」という夢を持つようになりました。それまでは母の影響もあり「看護師」を夢みていたのですが、学習旅行で沖縄を訪れた際に空港という「場」に大きな憧れを感じたのです。自分の夢を英語でスピーチする校内のコンテストにも出場するなど、思いを「書いて伝える」ことには常に積極的でした。

一方本を読むことは正直、得意ではありませんでした。でも、読書の授業で読んだ『一房の葡萄』や『十五少年漂流記』は心に



中学2年次のドリームキャンバス



「あなたが あなたで あること」

The important thing about you is that you are you.

It is true that you were a baby, and you grew and now you are a child,
And you will grow, into a man, or into a woman.

But the important thing about you is that you are you.

(Margaret Wise Brown "The Important Book")

表紙絵：2022年度高校1年生／三好音奈
裏表紙：盈進中学校読書科／はじまりの1冊
マーガレット・W・ブラウン『たいせつなこと』